



イギリスとフランスの古いうた

～16 世紀の世俗歌曲 ダウランド、ジャヌカン、セルミジ～

歌：中島 万紀子（早稲田大学非常勤講師）

リュート：田村 仁良（リュート奏者）

ヴィオラ・ダ・ガンバ：田中 孝子（ヴィオラ・ダ・ガンバ奏者）

リコーダー：瀬下 万美子（早稲田大学文化構想学部 3 年）

秘密結社セグレタ（秘密の声楽アンサンブル）

クローダン・ド・セルミジ	「わたしはもはや少しも愛情を持っていない」	
ジョスカン・デ・ブレ	「千々の悲しみ」	
クローダン・ド・セルミジ	「う、う、ピエール先生」	
ピエール・セルトン	「おでぶで脂ぎったチボー坊さん」	
ジョン・ダウランド	「騒ぎ立つ思いよ」	
ジョン・ダウランド	「晴れていても曇っていても」	
ジョン・ダウランド	「さあ、もう一度」	
ジャック・アルカデルト	「マルゴよ、葡萄畑を耕しなさい」	
クレマン・ジャヌカン	「緑の森へ」	
クレマン・ジャヌカン	「愛と死と生」	
クローダン・ド・セルミジ	「歓びをあなたにあげましょう」	
クローダン・ド・セルミジ	「花咲く日々生きる限り」	ほか

10 月 12 日 (金) 19:00 開演 (18:30 開場)

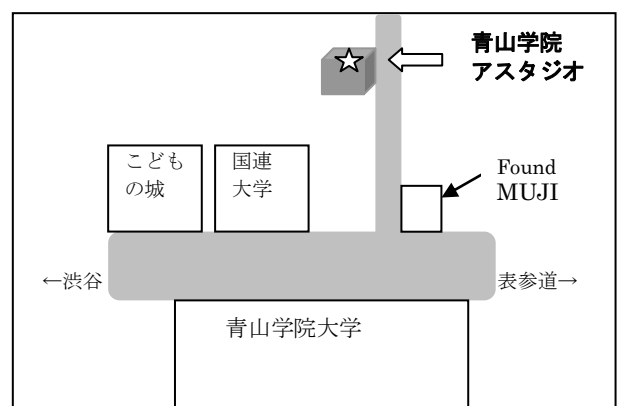
於 青山学院 アスタジオ 地下 1 階ホール

◇来聴歓迎 無料◇

連絡先：国際研究センター

青山キャンパス 8 号館 5 階

E-mail : rsc@sipeb.aoyama.ac.jp



時は 16 世紀、日本では安土桃山時代、豊臣秀吉が君臨していた頃…。

その当時ヨーロッパではどんな歌が歌われていたのでしょうか？

教会ではもちろん教会音楽、宗教曲が演奏されていましたが、それ以外の場では、こんな曲が親しまれていたようなのです…！

1 曲 1 曲が短くて、メロディが親しみやすい！

今の日本に暮らすわたしたちが聴いてもどこかなつかしい！

…そんな曲の数々をご紹介しますと思います。

○演奏者紹介○

中島 万紀子（なかじま まきこ）



Photo：田中直康

早稲田大学文学学術院非常勤講師。
昴教育研究所フランス語講師。歌は趣味。
専門は 16 世紀フランスではない。

田村 仁良（たむら よしふみ）



Photo：田中直康

リュート及び通奏低音奏法を水戸茂雄、
永田平八、A. ルーリーの各氏に師事。
ルネサンス・イギリス黄金期のリュート音楽を
中心に演奏活動を行うほか、数々のアンサンブル
の専属リュートリストとして活躍、TV、FM 放送
にも出演している。ブログはこちら↓
<http://blog.livedoor.jp/yoshilute/>

田中 孝子（たなか たかこ）



Photo：井村重人

東海大学教養学部芸術学科音楽学課程卒業。ヴィオラ・ダ・ガンバを
志水哲雄に師事。また福沢宏、中野哲也、マリアンヌ・ミューラー、
ヴィーラント・クイケン各氏のレッスンを受ける。読売新聞社主催
第 74 回新人演奏会出演。2006 年、フランス・グルノーブル国立音楽
院に留学。現在は、関東と東北を拠点に演奏・教育活動を行っている。

◇その他のメンバー◇

瀬下 万美子（せした まみこ）

早稲田大学文化構想学部・多元文化論系 3 年在学中。

秘密結社セグレタ

秘密結社だけにその実態は謎に包まれているが、どうやら
ひとパート一人ずつの声楽アンサンブルであるらしい。